



櫻 真

オーストラリア修学旅行



オーストラリア 修学旅行

平成24年11月16日～21日(A班)

平成24年11月17日～22日(B班)

行	程	表
1	各集合場所から成田空港へ。19:50 発のカンタス航空にて機中泊。	
2	シドニー空港から、最初の見学地ミセス・マックオーリーズ岬へ。オペラハウスを見学し、サーキュラーキー・ロックス地区を通過してレーベンプロイでランチ。コガルーで買い物を楽しみ、15:30 ボウラルの街でホストファミリーと対面。	
3	終日ファームステイ体験。ホストファミリー宅に2泊目。	
4	8:20 頃ホストファミリーと別れ、ブルーマウンテンへ。スリーシスターズ展望台を見学したり、シーニックワールドでトロッコに乗車。ルーラの街を自由散策し、ホテルへ。その後夕食を含むシドニー市内班別自主研修へ外出し、20:00 The Menzies Sydney Hotel 集合、宿泊。	
5	9:45 シドニー水族館前で市内班別自主研修へ解散、17:00 集合。ハーバーサイドショッピングセンターで夕食後、シドニー空港から日本へ。	
6	朝6:10 に成田空港に到着。かけがえのない思い出を胸に帰宅。	

訪問先がケアンズからシドニーに変わって2年目。昨年生徒に好評だったファームステイは今年も有意義な体験となったようで、アンケートで「大変良かった・良かった」という回答が90%でした。また、ブルーマウンテンではシーニックワールドでトロッコに乗車したり、シドニー市内班別自主研修は7時間というゆとりの設定で、充実した研修を楽しむことができたと思います。ちなみに使ったお小遣いは、7割の生徒が3万円以内だったようです。

ファームステイを終えて

日大2年2組

村上 秀美

私は、今回のオーストラリア修学旅行で、たくさんのお話を学ぶことができました。

一番印象に残っていることは

ファームステイです。最初は知らない地域で知らない人と生活することや会話ができたのかという不安がありました。しかし、実際にファームステイをさせていただく家族に会ってみると、とても優しい家族で、一気に不安は無くなり、会話も少しですがジェスチャーなどを組み合わせて話すことができました。ファームステイ先では、毎回おいしい料理を頂き、満足して食事をすることができました。他にも海やピクニックに連れて行ってくれ、本当に楽しめました。

そんなファームステイをしている中で困ったことがありました。それはシャワー時間が3分間だったということです。雨がなかなか降らない地域だったため、水が貴重なものでした。水の豊かな日本では考えられないことで、水の大切さを知ったファームステイにもなりました。

ホストファミリーが本当に良くしてくれて、思い出に残る楽しい修学旅行になりました。

楽しかった修学旅行

日大2年3組

奈良部 彩香

私は、修学旅行に行ってきた皆さんの思い出ができました。中でも一番心に残っていることが、ファームステイです。

最初は、言葉や文化の違うところで上手にコミュニケーションが図れるか不安でいっぱいでした。しかし、ホストファミリーの方々は、優しく温かく接して頂き、すぐに打ち解けられました。いつの間にか不安だった気持ちはなくなり、言葉が通じなくても、心では通じ合っていて自然と笑顔になれました。

もう一つ、心に残っていることが友達です。約5日間、一緒に過ごしてみて、友達の新しい一面をたくさん発見できました。みんなで作り上げた修学旅行はとても楽しかったです。

また、日本では考えられない広大な敷地に、動物たちの世話、食事、観光、ショッピングなど、驚きでいっぱいでした。この出会いと体験は一生忘れません。素敵な宝物が増えました。

これからは、一つひとつの出会いを大切に、英語の学習にも力を入れていきたいと思えます。

とても大きな2日間

国立2年2組

仁平 美咲

果てしなく広がる広原。アルパカの群れ。空が高くて風が気持ちよいファームステイ2日目。昨日会ったばかりのホストファミリーのおばあさんとはまだ言葉の壁はあるものの、完全に打ち解けていました。私が何かを伝えようと拙い英語を並べていくと、ほほえんで答えてくださいました。それがとてもうれしくて、自然と笑顔になっていました。

その日はおばあさんの娘さんの牧場に行き、牛のミルクを飲むという直接体験が楽しかった。ホームビデオを観たり、笑いが絶えませんでした。私にとって全てが新鮮でも楽しかったです。そして何より、おばあさんや娘さん、私より年下の子まで本当に優しく「帰りたくない」と本気で考えてしまいました。お別れの時、私が「寂しい」と言うと何も言わずに抱きしめてくれたおばあさん。感謝の気持ちでいっぱいだったけれど、英語力の低さで全部伝えられませんでした。だからこれからもっと学んで、いつかおばあさんに恩返しができるかなと思っています。

日大2年1組

日本大学NU祭

「企画賞」を受賞して

日大2年1組 担任 吉田智治

4月新クラスがスタートしてすぐ、文化祭で何を出展するか話し合いに入りました。遊び感覚が強くゲーム的なものややりたいもの、高校生らしく環境問題や歴史的なものなど固い内容の出展を主張するもの、話し合いはなかなかまとまらない。小グループでの会議を繰り返して、ようやく5月中旬テーマを『錯覚』に決定しました。

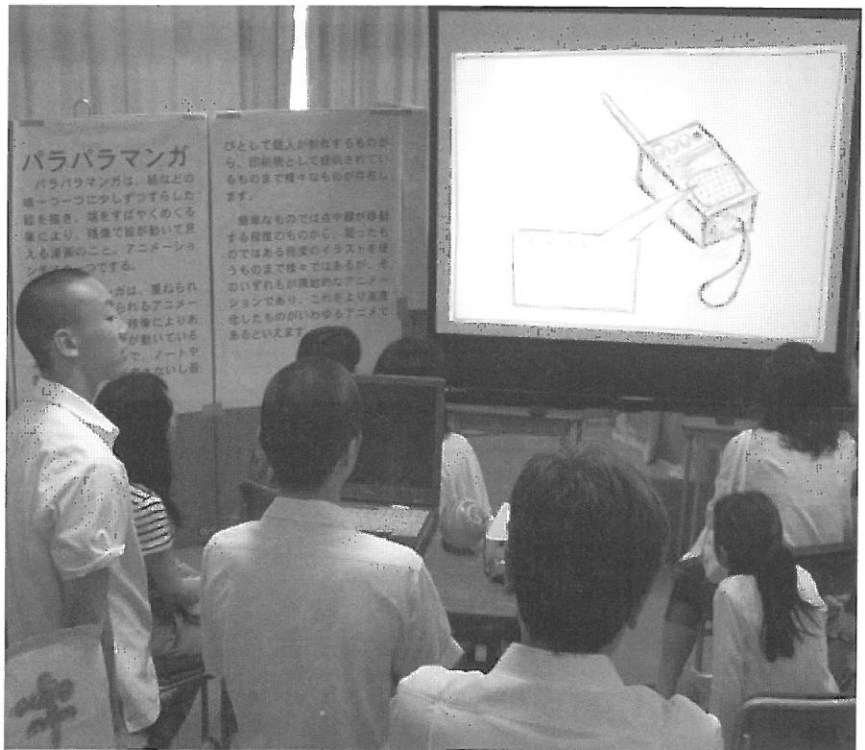
『錯覚』とは、脳が様々な原因でだまされることで、手品もパラパラ漫画も、みな『錯覚』の範疇だとの認識に立ち、出展内容を『目の錯覚』『手品』『パラパラ漫画』の三本立てに決定しました。

生徒は4つの班に分かれ作業に入りましたが、なにせ3本立てのため準備は本当に大変でした。目の錯覚グループは、ネット上で錯覚の種類やそれが起きる原因などを調べ、40枚以上の模造紙を使って丁寧に発表してく

れました。手品グループは、手品をできる生徒ができない生徒に教えたり、新たな手品を覚えたりと、だれが出展を担当しても同レベルの技ができるようにと、必死の努力をしてくれました。パラパラ漫画の作成グループは、ストーリーを考え、2,000枚を超える原面を描き、それをパソコンに取り込んで、時には自宅に持ち帰って作業し、『パラパラ漫画』を完成させてくれました。会場作り班の苦労も見逃せません。担任の怒号にもめげず必死に出展教室の設営を完成させてくれました。

しかし、日本大学NU祭では、ビデオ発表でなおかつ2分以内という時間制限がありました。日本大学NU祭への出展が決定してから、実際に何をどう出展するか本当に悩みました。

そこで生徒と相談した結果、NU祭のテーマを意識した新しい『パラパラ漫画』を作成し、



▲パラパラ漫画上映風景

それを発表するということになりました。

桜蔭祭で活躍したパラパラ漫画作成グループに再度ご苦労を掛けることになりました。『現実逃避をしている若者が、現実に向き、辛い現実を打破するために立ち上がる』という内容のストーリーを考え、前回は上回る2,500枚を超える原面を描き、『パラパラ漫画』を完成させてくれました。

日本大学のNU祭ビデオ発表会には、日本大学総長大塚先生や理事長田中先生をはじめ大勢の方々が出席されました。他校のビデオ発表は、学校の文化祭全体の内容を伝えるもので、本校の出展は全く異質のものでした。出席された方々はその内容に驚き、また、完成度の高さに大きな歓声と拍手を送ってくださいました。

生徒全員の力の結晶が校内展



▲熱心な説明

▲見事な手さばき

示部門優勝、日本大学NU祭企画賞獲得に繋がったものと確信しています。やんちゃな面も時折見えますが、本当に素晴らしき生徒たちに巡り会えた幸運に喜んでいます。末筆になりますが、ご協力いただきました保護者の皆様にも感謝いたします。ありがとうございました。

部活動の記録

■ソフトテニス部

昨年10月に開催された茨城県高等学校ソフトテニス新人大会兼茨城県高等学校ソフトテニスインドア大会予選において、男子団体が優勝で予選突破。そして12月に開催された茨城県高等学校ソフトテニスインドア大会において、男子団体が2年連続7回目の優勝を飾り、関東高校選抜大会に茨城県代表として出場を決めました。2年連続県大会4冠を達成しました。

茨城県新人戦

【男子団体優勝】

- 藤田雅樹 (日大2-4)
- 櫻井宏道 (日大2-3)
- 粕田拓人 (日大2-4)
- 飯村勇太 (日大1-3)
- 飯田浩晶 (日大1-4)
- 中島賢也 (日大1-4)
- 福嶋隼人 (日大2-4)
- 宮内健太 (日大1-4)

茨城県インドア大会

【男子団体優勝】

*メンバーは新人戦に同じ。

関東選抜ソフトテニス大会

【男子団体】

準々決勝ベスト8
*メンバーは新人戦に同じ。



■卓球部

全日本ジュニア地区予選

【男子シングルス優勝】

菅原康平 (日大2-3)

【男子ダブルス優勝】

菅原康平 (日大2-3)
新井允也 (日大2-4)

茨城県新人戦

【男子団体3位】

阿部裕樹 (日大2-1)
新井允也 (日大2-4)
菅原康平 (日大2-3)
根本貴大 (日大2-4)
野澤一弘 (日大2-4)

東京選手権大会

【男子シングルス4位】

山口 慈 (日大1-3)

【男子シングルス5位】

菅原康平 (日大2-3)

■ゴルフ部

茨城県オープンゴルフ

【女子個人優勝】

飛田愛理 (日大3-1)

第67回国民体育大会

【女子団体4位】

照山亜寿美 (日大3-3)
飛田愛理 (日大3-1)

関東ゴルフ選手権冬季大会

【女子個人15位】

金澤志奈 (日大2-4)

*全国高等学校ゴルフ選手権春季大会へ出場。

■スキー部

茨城県高等学校総合体育大会

【大回転1位】

園府田省吾 (日大1-3)
*全国大会・関東大会出場

【大回転3位】

鈴木大都 (日大2-4)
*関東大会出場

【回転1位】

園府田省吾 (日大1-3)
*全国大会・関東大会出場

【回転3位】

鈴木大都 (日大2-4)
*関東大会出場

■剣道部

茨城県高等学校新人剣道大会

【男子団体第3位】

笠井正敏 (日2-1)
矢口陽一朗 (日2-2)

後藤泰己 (日2-3)

金子太一 (日2-4)

山崎拓実 (日1-1)

中村春貴 (日1-2)

藤井謙伍 (日1-4)

【女子団体第3位】

富張未紀 (日2-4)
国分郁 (日2-3)

佐藤映里香 (日2-3)

曾雌あずさ (日2-4)

阿部由季 (日1-3)

丸山みさと (日1-2)

■新聞部

第4回茨城県高等学校新聞コンクール

【奨励賞】

■放送部

県高校放送コンテスト新人大会

【4位】関東大会出場決定

吉田弦樹 (日大2-3)

■文芸愛好会

茨城県高等学校文芸部中央大会

【短歌の部 最優秀賞】

北島嵩大 (日大2-4)

【詩の部 最優秀賞】

武田孝祐 (日大1-1)

【散文の部 佳作】

宮田憲人 (日大3-4)

【散文の部 佳作】

路川綾奈 (日大3-6)

■美術部

NU祭

【絵画の部 校友会特別賞】
相田咲希 (日大3-1)

日本大学付属高等学校

第30回文芸コンクール

【詩の部門 入選】

鬼澤勇弥 (日大2-3)

【小説の部門 佳作】

武田孝祐 (日大1-1)

全国高校総文祭

新聞部門に参加して
日大2-3 桑野将和

8月8日から10日にかけて、

富山県高岡市で開催された第36回全国高等学校総合文化祭新聞部門に参加しました。

初日の夕方、まず生徒全体交流会が行われ、全国から集まった県代表の生徒たちと、富山に関するクイズで楽しみました。その後の班別交流会ではメンバーの役割を決め、3日間どのような新聞を制作していくかを話し合いました。

2日目は開会式・表彰式から始まりました。また、高校新聞とはどのようなものであるべきかという講演もいただきました。午後には班別の取材活動が始まり、私たちの班は北陸コカ・コーラ工場、散居村ミュージアムを訪問しました。取材後のわずか2時間での交流新聞作成では、全国の新聞部のレベルの高さを思い知らされ、今まで知らなかった新聞作りの技術を教えてもらい、とても勉強になりました。新聞作成は時間内では終わりそうになかったので、ホテルに戻った後もメンバーと連絡を取り合い、記事作りに励みました。

最終日は、各自担当した記事の作成をして、最後にタイトルを書いて完成させました。新聞を作り終わった時、皆で喜んで班のメンバーとともに集合写真を撮ったことは、今でも鮮明に覚えています。

今回、県の代表として総文祭に参加し、これからの新聞作りに活かせるような知識を得ることができたのは、私にとって大きな収穫となりました。そして、全国の友達ができて、今でも連絡を取り合うような仲になれたのも嬉しかったです。再来年にはいばらき総文祭が開催される

ので、これまで以上に新聞作りを頑張り、高校新聞部を盛り上げていきたいです。

学校新聞「岩日タイムズ」

を知っていますか？

新聞部顧問 時杉博人

平成23年12月の茨城県新聞コンクールにおいて、本校の新聞「岩日タイムズ」が奨励賞を受賞し、平成24年8月に富山県高岡市で実施された全国高等学校総合文化祭（総文祭）に茨城県代表として推薦されました。

他校の学校新聞は、その多くが教員の手によるものであったり、レイアウトや印刷も専門の業者が行うなど、非常に立派な新聞が多いです。一方、本校の学校新聞は、そうした他校の新聞に対して、見栄えこそ劣るものの、部員たち自身が記事の内容・見出しを考え、レイアウトを設定し、（唯一、校正だけ私が担当しますが…）印刷までをすべて自分たちで行いますので、手作り感が感じられます。部員は、部長の桑野将和君（日大2-3）と副部長の石渡信哉君（日大2-2）のわずか2名ですが、2人とも一騎当千の人材です。それぞれ役割を分担し、新聞編集ソフトの操作を覚えながら、2ヶ月に1度の発行を目

指して作成・発行しています。

総文祭は「文化部のインターハイ」と言われ、全国でも指折りの強豪校が参加し、新聞部門では、全国から参加した新聞部員とグループを作り、高岡市内や周辺地域の取材を通して、2日間で作成し、「交流新聞」を作成します。

2人とも最初は緊張していたようですが、次第に同じグループのメンバーと打ち解けていきました。新聞記者顔負けの全国の新聞部員に刺激を受けたようです。

平成26年8月には、茨城県で総文祭が実施されます。47年に1度という、きわめて貴重な機会といえます。2人の部員は残念ながら卒業してしまい、参加できません。現1年生や新入生は、総文祭という全国の舞台で活躍できる絶好の機会です。是非、力を貸してください。



放送部初の

関東大会出場が決定！

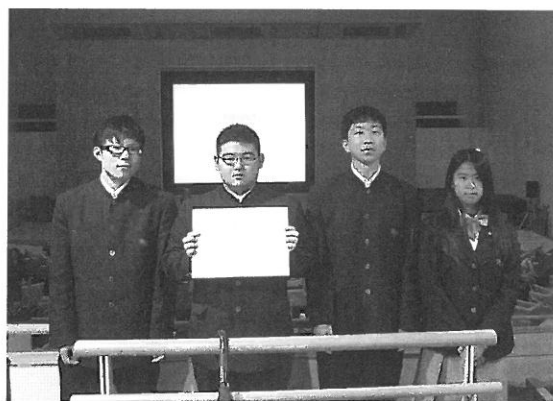
放送部顧問 時杉博人

平成24年11月6日、茨城県立図書館において、平成24年度茨城県高校放送コンテスト新人大会（兼・平成25年度全国高等学校総合文化祭放送部門茨城県予選）が実施されました。本校放送部の吉田弦樹君（日大2-3）が朗読部門に出場し、『茨城の童話 へのかっぱ』（柚子木薫・作）の朗読で見事4位に入賞し、表彰されました。本校放送部としては、初の県大会入賞という快挙を成し遂げ、平成25年1月27日にさいたま市で開催される関東大会への出場が決まりました。

朗読部門の他にも、一昨年から映像制作にも力を入れており、ビデオメッセージ部門でも鈴木将太君（日大2-4）が脚本・演出・監督の一人三役で、コンクールでは強豪校相手に健闘しました。また、8月には専門学校主催の高校生声優コンクールにも出場したことがあります。

放送部で活躍した成果を進路に活かす生徒も多く、平成22年度から3年連続で4名の部員が日本大学芸術学部への推薦入学を果たしています。

平成26年8月上旬には、茨城県で全国大会が行われます。現在の1年生部員がわずか1名という現状であり、1年生部員を募集しています。朗読や映像に興味・関心がある人は是非見学に来てほしいと思います。



文芸愛好会初の全国高校

総文祭参加生徒が決定！

文芸愛好会顧問 笠倉教子

平成24年10月青少年会館で行われた中央大会において最優秀賞を獲得した北島嵩大君（日大2-4）と武田孝祐君（日大1-1）は、平成25年8月に長崎総文祭に参加することが決まっています。ますますの創作活動を期待しています。

学校行事

希望者

ハワイ英語研修

「アロハ！」

7月22日(日)～8月5日(日)

1年生11名が15日間の英語研修に参加しました。セントルイス高校の先生の英語による授業、現地の生徒との交流など、英会話の実践やハワイの歴史や文化に触れることができました。引率は佐藤真奈美先生でした。



全校
桜蔭記念講演会
「南極で越冬した
外科医の夢」

9月13日(木)

今年度の桜蔭祭テーマ「Progress」に沿い、将来の夢を持つこと、また夢を実現することについて、第41次日本南極地域観測隊越冬隊医療担当で、現在は筑波大学附属病院呼吸器外科に勤務されている酒井光昭医学博士にご講演いただきました。知られざる越冬隊の興味深いお話に、講演後は質問攻めにあつて「こんなに積極的に質問をしてくれるなんて岩日の生徒はすごいなあ」とお褒めの言葉をいただきました。

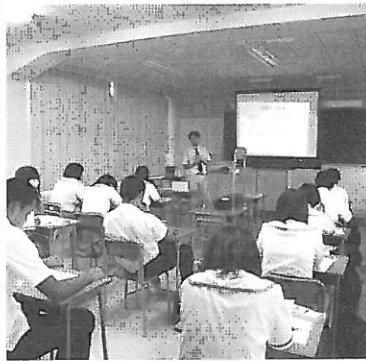


医学博士 酒井光昭氏

全1・2年生
大学・短期大学等出張講義
「70分真剣勝負！」

9月21日(金)

本校に日本大学をはじめとする大学・専門学校の方をお招きして、出前授業を体験しました。生徒の皆さんは19講座のそれぞれ興味のある分野に分かれ、始まる前は「難しいのでは」と緊張気味に心配していた生徒たちですが、始まると授業に聴き入っていました。



全校
スポーツフェスティバル
「学年関係なしの白熱戦！」

9月28日(金)

バスケットボールやバレーボールなどの競技が、クラス対抗で行われました。体育の時間や放課後に練習して、チームワークは各クラス万全！当日は白熱した試合に、応援にも力が入りました。

日大付属生のための

語学研修参加生徒

全国の付属校から選ばれた生徒の皆さんは、有意義な研修となったことと思います。

第4回付属高校生のための
サマー・プログラム

(平成24年7月)

■参加生徒(写真右から)

国立2年1組 稲川 友香

日大3年1組 古谷野すみか

日大3年2組 坪井 美佳

■引率教員 友常 仁美

第18回付属高校生のための

イースター・プログラム

(平成25年3月実施予定)

■参加生徒

国立2年1組 飯島あかり

日大1年4組 原沢 嵐馬

国立1年1組 小泉 葉月

全1・2年生
日大1・2年合同保護者会
・学級懇談会

国立1・2年合同進学会・保護者学級懇談会

12月15日(土)

1年を締めくくる恒例行事として、1・2年合同保護者会が行われました。前日の雨で足元の悪いなか当日たくさんの方の参加してくださいました。学級懇談会では、担任の先生方が、用意した資料を熱心に説明しました。



平成24年度 卒業生合格先区分別概況

*合格数は2月19日までの結果です。

1 日本大学(短期大学部を含む)

合格者数 128名

学部名	合格	学部名	合格	学部名	合格数
法学部	11	芸術学部	3	工学部	10
文理学部	15	国際関係学部	11	生物資源科学部	12
経済学部	6	理工学部	12	短期大学部	7
商学部	13	生産工学部	24		

2 私立大学

合格者数 119名

大学名	合格	大学名	合格	大学名	合格数
足利工業大学	1	成蹊大学	1	東北福祉大学	2
茨城キリスト教大学	2	大東文化大学	4	東洋大学	3
浦和大学	1	拓殖大学	1	常磐大学	3
桜美林大学	1	玉川大学	1	獨協大学	4
大妻女子大学	2	千葉工業大学	3	名古屋商科大学	1
神奈川工科大学	5	中央学院大学	2	二松學舎大学	1
川村学園女子大学	1	中央大学	1	日本女子大学	2
関東学院大学	2	つくば国際大学	2	人間総合科学大学	1
北里大学	5	帝京科学大学	1	白鷗大学	2
群馬医療福祉大学	1	帝京大学	5	文教大学	1
国学院大学	2	帝京平成大学	2	法政大学	1
国際医療福祉大学	6	東海大学	7	星薬科大学	1
駒澤大学	1	東京工科大学	3	武蔵野大学	1
淑徳大学	1	東京工芸大学	2	明治学院大学	4
城西国際大学	1	東京国際大学	1	明治大学	2
城西大学	3	東京電機大	2	明星大学	1
上智大学	1	東京農業大学	1	立正大学	4
昭和女子大学	1	東京福祉大学	3	流通経済大学	1
駿河台大学	1	東邦大学	1	早稲田大学	1

3 私立短期大学

合格者数 2名

大学名	合格	大学名	合格
つくば国際短期大学	2	帝京短期大学	1

4 専門学校

合格者数 23名

学校名	合格	学校名	合格	学校名	合格数
アール医療福祉専門学校	2	大宮医療秘書福祉専門学校	1	東京調理師専門学校	1
IFC 製菓専門学校	1	大原スポーツ公務員専門学校宇都宮校	1	東京メディカルスポーツ専門学校	1
ESP ミュージカルアカデミー	1	大原専門学校宇都宮校	1	ハンサム銀座理容美容専門学校	3
茨城歯科専門学校	1	大宮ビューティーアート専門学校	1	文化デザイナー学院	1
宇都宮アート&スポーツ専門学校	1	つくば栄養調理製菓専門学校	1	ホンダテクニカルカレッジ専門学校	1
盈科美容専門学校	1	帝京高等看護学院	1	リリー保育福祉専門学校	2
大原医療秘書福祉専門学校	1				

5 大学校

合格者数 2名

学校名	合格	学校名	合格
埼玉自動車大学校	1	栃木県立農業大学校	1

6 就職

合格者数 3名

就職先名	合格	就職先名	合格	就職先名	合格数
国民宿舎「鶉の岬」	1	昭和産業株式会社	1	農業(家業)	1

一年間ご協力

ありがとうございますでした

岩瀬日大高校の魅力、
そして発展を



父母と教師の会会長

内桶克之

岩瀬日大高校では、子3人のうち、息子2人がお世話になりました。長男（長崎大学4年）が入学したのは、夏休みの高校見学がきっかけです。夏休み中に高校訪問を行っていた長男は、県立高校の説明は体育館での説明が多く、とても暑かった。それで、岩日では冷房の効いた教室での説明で、冷暖房があること、周辺に遊ぶところがない環境がとても気に入りました。国立大学を目指すときっぱり、推薦入試で入学を決めました。その4年後、次男の高校入

試。中学で野球をしていた次男は、高校でも野球を続けることで当初は水戸市内の県立高校を希望していました。入試は岩日併願で県立高校の願書を提出しましたが、最終的には、県立高校の受験はせず、入学を決めました。

入学直後に大塚先生が「君たちは勉強するためにここにいます。勉強することに誇りを持って。」と言ったことがとても印象的でした。高校生活は自己の価値観、目標で決まります。目標がぶれないことが大切で、目標がぶれないようにモチベーションを保つのは大変です。先生方の努力、そして行動力に感服しています。

次男は国立大学を目指し、一日も休まず楽しく通わせていただきました。岩日に魅力を感じ、入学を決め、勉学に励み巣立っていくことを嬉しく思います。そして、私も子どもとともに親として成長させていたいただきました。幼稚園から始まった役員

生活も終止符です。今後とも、岩瀬日大高校が地域で愛され、発展していくことをお祈りします。

支部活動に参加を！

桜川支部長 園田哲也

不安に苛まれながらの支部長でしたが、役員をはじめ、大月校長先生、担当の宮内先生など多くの方にサポートしていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

桜瑛祭や地区別懇談会等の行事を通し、保護者はもちろん、先生方と懇談する機会に多く恵まれ、進学や部活動に関する相談など有意義な時間を過ごすことができました。

保護者の方にとって欲しいのは、このことは役員に限ったことではないということです。積極的に学校行事に関わることで十分に体験できるのです。桜川支部の皆さん、支部活動に参加し、保護者や先生方との交流を深めましょう！

明るい校風

下館支部長 仙波茂則

父母会で訪れた時、廊下ですれ違う生徒たちは、はつきりした口調で挨拶をしてくれます。そのたび私は、さすががしさを感じます。面識がない大人に、いつも挨拶することは勇気が必要です。挨拶は気遣いの第一歩、社会に出れば、どんなに仕事が出来ても挨拶が出来なければ相手にされないこともあります。これを社会人になってから気づくか、学生のうちから自然に出来るかは大きな差と言えるのではないのでしょうか。また、そういったことができる人はきっと社会にでも心配することは無いと思います。このような指導をされてこられた先生始め父母会の先輩のみなさまに、あらためて感謝申し上げます。

一年を振り返って

県西支部長 弦巻 崇

県西支部長として、一年が過ぎました。選任されたことに戸惑いを感じながらのスタートでしたが、各事業の実施にあたり、役員や委員をはじめ会員の皆様にご協力をいただき、無事に終えることができました。深く感謝申し上げます。

支部総会・地区懇談会では、

先生方と多くの会員の皆様のご出席のもと、子どもの進路や生活について貴重なアドバイスをいただいたり意見を交わしたりすることができました。また、桜瑛祭の模擬店では、支部一丸となって活動し、ご協力いただいた方の交流も深まりました。今後の岩瀬日大高校並びに父母と教師の会の更なるご発展をお祈りいたします。

一致団結

ときわ支部 友部邦男

今年度の支部長をお受けすることになり「まとめることができるだろうか」と大変不安なスタートでしたが、会員の皆様のご理解とご協力により数々の活動を行い、お陰さまで無事に年度末を迎えようとしております。

特に桜瑛祭「焼き鳥出店」では初日、二日目ともに30名を超える皆様に参加をいただき、保護者同士の親睦を深めるとともに、子供たちと一緒に桜瑛祭を楽しむことができました。

ときわ支部は会員の居住地が広域に渡るため日頃の交流はなかなかできませんが、支部活動では皆が協力し合い「一致団結」して活動することができたとおもいます。会員の皆様には、

今年一年本当にお世話になりました。心より感謝申し上げます。

「出会い」

北つくば支部長 大森光子
行動力、統率力：んー、無い！

そんな私が「支部長」という大役。憂鬱と不安を払拭してくれたのが桜瑛祭の出店でした。

北つくば支部の特徴は、我が家をはじめ、お父様たち男性の姿はほとんど見られない、KT B 48（北つくば48）かAKS 48（明野・協和・関城48）と別名にしようかと思うくらいの女性中心での活動です。そして「流石！」と感心するほどの熱い熱い看板娘たちのおかげでフランクフルトとジュースは売れていくのでありました。ただ、テナント設営は他支部のお父様が、か弱い（？）レディー達に手を貸してくださいまして……この場をお借りして御礼申し上げます。

皆さんとの「出会い」も支部長になった特権でした。感謝。

感謝感謝の一年間

栃木支部長 平野秀雄

少子化の時代にあつて、栃木支部の会員は年々増加し、今年度は一一八名と最大支部になりました。これは中学校での進路

指導や高校の先生方の熱心なご指導のたまものです。同時に、会員の皆様が桜瑛祭や懇談会や研修会等への参加・協力を通して、高校生活のこと、卒業後の進路のことなど様々な情報交換をしてきた成果ではないかと思えます。さらに、会員の皆様のご尽力によりスクールバスの三便化が実現し、通学がより便利になったことも大きな要因であると考えます。

このように、精力的にご支援いただいた結果が高校の好評価となり、会員の増加につながっていると思えます。高校が良くなれば我が子も良くなり、それを会員の皆様が支えるという理想的な形でした。会員の皆様の温かいご支援に、改めて深く感謝申し上げます。一年間、頼りない支部長でしたが、本当にありがとうございました。



成人教育研修会

浅草東洋館観劇、浅草・ソラマチ散策

成人教育委員長 高田 通

毎年好評の参加者のもと行われてきた成人教育研修会。今年 は待望のスカイツリー完成オープン の年とも重なったこともあり、これまでの観劇メインのものとは違い散策中心のものを計画し10月13日土曜日秋晴れの

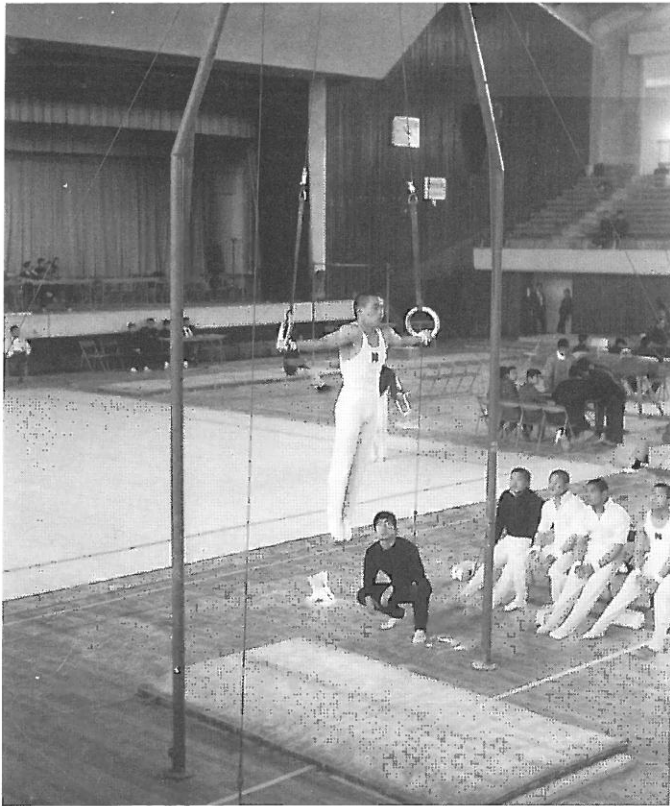
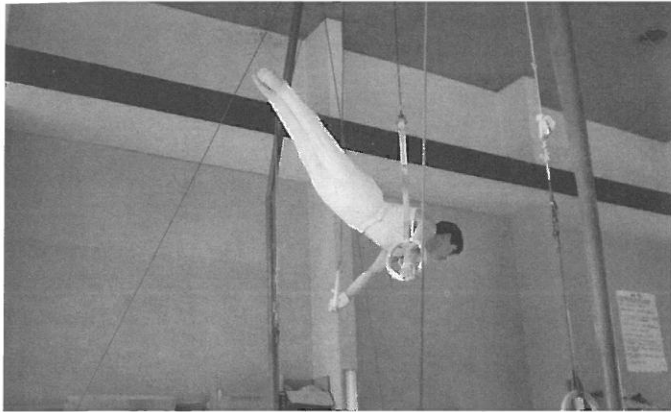
ひとつ勉強になりました。ちなみに本社ビルはやっぱりビルジョッキと泡だそうです。昼食はこのスーパードライホール2階のフラムドールでビールを飲みながらのビュッフェ！とても美味しかったです。

もと保護者41名と大月光司校長先生・鈴木智之先生のご参加でスカイツリーのお膝元、浅草東洋館観劇、浅草・ソラマチ散策の成人教育研修会を実施いたしました。

浅草東洋館は小さい劇場でしたが常連さんも多く、ステージと客席がとても近く一体感がありいつもの観劇とは違った楽しみ感がありました。その時に出演していた芸人さんが水戸出身の方で岩瀬の話題を取り上げてくれ親しみが湧きました。

スカイツリーの近辺には浅草雷門・浅草寺、吾妻橋を渡るとすぐそこにはアサヒビール本社ビルと並んだ変わったカタチのオブジェが。私はちよつとトイレの〇〇を想像してしまったりして……。ビール会社のオブジェならきつと『ビールの泡なんだろう』と思っていました。でも、人力車に乗った時の案内であのオブジェの建物は朝日スーパードライホールと言ひ、屋上の建造物は「炎のオブジェ」と言ひ、躍進するアサヒビールの心の象徴とか、社員の情熱の証などを表しているとのこと。

ソラマチでは水族館や浅草ならではの雑貨屋さんや、スイーツのお店では日本初出店というお店が多くあり、多くのソラマチ限定商品が随分見られ一日かけても見きれないほどです。残念ながら今回はスカイツリーに上ることはできませんでしたが、浅草下町の活気ある町並み、情緒に触れ、最新の技術を用いたスカイツリーを目の当たりにすることができ、充実した研修会を行えたと感じています。



関東大会入賞

2年生から本格的な練習（本来の体操競技としての6種目）を始めた訳で、1年間のブランクは他校の選手と比べ大きなハンディとなりましたが、1年生の時に行った基礎練習・筋力トレーニングが功を奏し、3年生の時には技術的にも他校の選手に引けを取らないまでになりました。3年の春の県大会では優勝には至らなかつたまでも、団体総合2位になり、関東大会初出場を果たし、初出場で6位に入賞することが出来ました。

顧問に感謝

私と同じに入学した者の中には、体育館もなく器具も満足にそろっていない状態に不満を持ち、学校を辞め進路変更をして他校での競技生活を選択した人もいました。私たちも1年生の時には何の楽しみもない、苦しいだけの基礎練習・筋力トレーニングに嫌気がさし、反発したこともありました。今思えばどのような状況下に置かれても、今何が出来るか今後の技術向上のために今何をすべきかを、厳しくも愛情を持って指導してくださった顧問の菊込先生には感謝してもしきれないものがあります。

私の高校時代

13

市毛 美喜男
教頭



※プロフィール

誕生日 昭和26年7月10日

出身地 茨城県内原町
(現在水戸市)

出身校 土浦日本大学高等学校
(5期生)

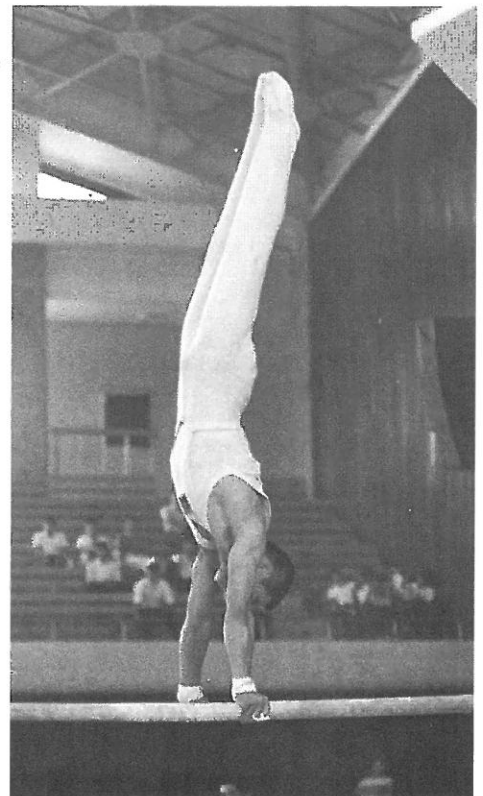
最終学歴 日本大学
文理学部体育学科

好きな言葉 「この道より、我を生かす道なし この道を歩く」

趣味・特技 ゴルフ

逆境に負けず

私は、昭和42年4月に高校に入学しました。中学の恩師の薦めもあり、中学で行っていた体操競技が出来る環境を求め入学しましたが、当時はまだ学校に体育館がなく、練習は屋外で行っていました。器具もほとんどそろっていない中、1年間はほぼ毎日が基礎練習・筋力トレーニングが主でした。2年の4月には待望の体育館が完成し、顧問の先生と数人の部員で合宿所を作り共同生活を始めました。以後は、平日は約5時間、土曜日・日曜日は約



7時間の練習を行うのが日課でした。勿論自炊のため、食事は交替で作り、昼の弁当も自分たちで作りました。

さようなら

菊地副校長



昨年11月16日、菊地光司副校長先生が惜しまれつつお亡くなりになりました。奥様の菊地敏子様と、故菊地副校長と長く親交のあった青木俊彦先生（元本校教頭・現土浦日大高校教諭）のご厚意により弔辞をご紹介させていただきます。故菊地副校長の教師としての熱い情熱や人情味厚いお人柄を偲ぶことができると思います。ここに皆様とともにご冥福をお祈りすることができましたらと存じます。

弔辞

菊地先生、私は今、悲しみというよりも、深い怒りにとらわれています。そして幽明の境を隔てて先生に弔辞を捧げようとしています。実は、私は終生の友人を大学時代に一人亡くし、二十歳代半ば一人亡くし、つい最近、幼稚園、小学校、中学校時代を過ごした幼馴染みの友人を亡くし、そして菊地先生、神様は私のかけがえのない友人を次から次へと召されます。何故先生が病魔に侵されなければならぬのですか。もうじき還暦、最後の一仕事、そして第二の人生です。先生には遣り残したと、言い残したこと、たくさんあったと思います。まだまだ長い人生の途中です。どうして、どうして先生がこんなにも突然に逝ってしまったのか。まだ、私自身どのように受け止めたら

よいのか、受け止められません。然るにこれは現実なのだ。夢のまた夢の様にしか思えない。いや、夢であつて欲しい。

奥様の敏子さん、昇平くん、ご兄弟、奥様のご両親などご家族、ご親族の悲しみは想像に絶します。

七月半ば、先生の入院を聞いて霞ヶ浦医療センターを訪ねました。その時先生は意外に元気であり、先生の手を固く握っていつもの冗談で「点滴にお酒でも入れて、元気になれや！」と言い合いながら別れました。その後も幾度か先生を訪ねその都度、先生は不死鳥のごとく必ずや蘇ると信じて疑いませんでした。そんな先生が卒然と逝ってしまった。痛恨の極みです。受け止められません。

先生との交友は昭和五十一年土浦日本大学高等学校に奉職し

た時に始まりました。以来三十六年に及んでいます。先生は栃木県から私は山形県からのアパート暮らし、私のアパートには大きな風呂場があり、先生はそれを目当てによく訪ねてきてくれました。そして、二人でいつも大好きなお酒を傾けながら、学校の将来像やご自身の考えを熱く熱く語る先生の素顔がそこにありました。また、先生は自宅を新築されると、我々は毎晩のように大勢で押し寄せ、ドンちゃん騒ぎを繰り返しました。が、いつも最後は「こんな学校にしたい」そのために、「自分たちはこうあるべきだ」などと語り合いました。

更に先生との交流はそれぞれの実家を含めた家族ぐるみのお付き合いにまで発展しました。私の母の葬儀や父の病見舞いなど何度も山形まで来て頂いたり、その人柄は人情味厚く、誰に対しても誠心誠意、公平無私であり、先生の周りには必然的にいつも大勢の人々の存在がありました。

今でも象徴的に思い出されるのは、私が一年次担任し、二・三年次先生に受け持っていただいた進行性の筋ジストロフィーの桜井則雄君のことです。私などは及びもつかない、その車椅子生活を支えるサポート体制を見事なまでに確立し、立派に卒業させました。まもなく、桜井君は亡くなりましたが、先生は

人知れず今も欠かさずお墓参りをされていることを、私は知っています。

また、先生は抜群の記憶力と不屈の突破力、不撓不屈の何事にも諦めない信念は、その悠揚とした風格とともに職場においても遺憾なく発揮されました。

土浦日大高校・岩瀬日大高校・土浦中等教育学校における教頭・副校長などを歴任し、今日の土浦日本大学学園の礎を築かれました。蓼科サマースクール・ハワイ英語研修十周年記念事業・特別進学コースカリキュラム編成・進路指導、情報処理、入試関連のシステム構築・スクールバスの運行・医歯薬系クラス・スーパーハイクラスの開設、土浦日大中学校・中等教育学校開校に携わるなどその功績は枚挙に暇がありません。特に、先生は現在、岩瀬日大高校の副校長として、地方の私学の極めて困難な状況にある学校運営を抜群のアイデアと卓越した強いリーダーシップで改革途上であり、どれほど無念であつたか、想像に余りあります。

思い出しました。先生は寝ない人でした。サマースクールの指導などで睡眠時間が二・三時間だろと朝五時には「早く起きろ！」と起床している。しかも考えられないほどの甲高い大きな声で、元気でしたね。先生、今日まで睡眠時間が少なすぎました。これからは今まで

の分までゆっくりと休んでください。

先生には、奥様と一粒種の昇平君が残されました。私は最近非常に感心したことがありました。それは、昇平君であります。父親が病床にあつて意識も朦朧としていた最中、日大の付属高校の三年生が全員受験する日本大学統一テストが迫っていました。昇平君は受験しないで父親のもとにいたい。離れたくない。と言ったそうです。しかし、奥様はじめ家族の方々が父親もきつと受験を望んでいると説得して、受験いたしました。想像を絶する精神状態の中で、昇平君は最後まで頑張りぬきました。しかも、成績も良かったとのこと。菊地先生、見事なまでに昇平君は成長しています。これからは、天国から見守ってください。そして、私たちが昇平君の将来を楽しみにして見守っていきたいと思います。

先生との思い出は尽きません。誰よりも学校に、生徒に、卒業生に、一生を捧げた先生の遺業を継ぐべく、我々は一層の努力をする覚悟です。私は先生の言葉、笑顔、一挙手一投足、終生忘れることはありません。このうちは、心残りですが、先生がやすらかに眠られることを、衷心よりお祈りいたします。お別れの言葉といたします。

平成二十四年十一月二十日

青木 俊彦



編集後記 大学受験に思う

「櫻真」に関係されました
父母と教師の会及び先生方
には、心から御礼申し上げます。

無事平成24年度も末を
迎え、大半の3年生達は、
受験に合格し新しいキャン
パスライフに胸時めかせて
いることと思います。私も
今年初めて大学受験の子を
持つ親として思ったことで
すが、受験に対する親子の
意識には、かなりのギャッ
プがある様に感じます。
多くの親がみているのは、
卒業後の「就職」。子供が、
見ているのはともかく「受
験合格」。親は、大学を卒
業しただけでは就職につな
がらず、社会で認められる
保証がない現実を知ってい
ます。ですから大学選択に
おいても就職実績や資格取
得などを重視します。

この違いは仕方ない事
です。親として出来ること
は、目前の入試、不合格へ
の不安で悩む子供の視線を
少し将来に向けてあげて、
就職も含めた将来像を語り
合う時間を意識的に取って
見ることは、大学選択・受
験をさらに価値ある一歩に
し、今後の大学生活におい
ても励みになるのではない
でしょうか。

ガンバレ岩日卒業生！
広報委員長
小林 清孝（栃木支部）